

四国災害アーカイブス

 **アーカイブスあらかると**
Vol.130~141 (2023年4月~2024年3月)

一般社団法人 四国クリエイト協会

はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成24年7月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成25年7月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成26年7月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成24年7月以来、毎月、四国災害アーカイブスのWEBサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には令和5年度分 Vol.130～141（2023年4月～2024年3月）のコラムを編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブスが四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っています。

令和6年4月

一般社団法人 四国クリエイト協会
理事長 木村 昌司

目 次

- Vol. 130 (2023 年 4 月) **ため池と開墾**…………… 1
 - ・ 井関池と大野原 (香川県観音寺市)
 - ・ 門口池と古谷台地 (愛媛県今治市)
- Vol. 131 (2023 年 5 月) **昭和 35 年のチリ地震津波**…… 5
 - ・ 阿南市のチリ地震津波 (徳島県阿南市)
 - ・ 須崎市のチリ地震津波 (高知県須崎市)
- Vol. 132 (2023 年 6 月) **鑿と鎚**…………… 9
 - ・ 劈巖透水 (愛媛県西条市)
 - ・ 弥勒石穴 (香川県さぬき市)
- Vol. 133 (2023 年 7 月) **橋の流失**…………… 13
 - ・ 豊秋橋の流失 (愛媛県内子町)
 - ・ 小島橋の流失 (徳島県美馬市)
- Vol. 134 (2023 年 8 月) **8 月の台風**…………… 17
 - ・ 昭和 45 年の台風 10 号 (愛媛県伊予市)
 - ・ 昭和 50 年の台風 5 号 (高知県日高村)
- Vol. 135 (2023 年 9 月) **ジェーン台風とジューン台風**・ 21
 - ・ 昭和 25 年のジェーン台風 (徳島県那賀川流域)
 - ・ 昭和 29 年のジューン台風 (徳島県吉野川流域)

■ Vol. 136 (2023 年 10 月) ダムをつくる……………	25
・ 五郷ダム (香川県観音寺市)	
・ 須賀川ダム (愛媛県宇和島市)	
■ Vol. 137 (2023 年 11 月) 津波が来ると心得よ……………	29
・ 鞆浦の海嘯碑 (徳島県海陽町)	
・ 浦戸の稻荷神社の石柱碑 (高知県高知市)	
■ Vol. 138 (2023 年 12 月) 沈下と隆起……………	33
・ 北温海岸の沈下 (愛媛県松山市)	
・ 唐船島の隆起 (高知県土佐清水市)	
■ Vol. 139 (2024 年 1 月) 水のありがたみ……………	37
・ 佐文の香川用水記念碑 (香川県まんのう町)	
・ 満水池の香川用水導入記念碑 (香川県三豊市)	
■ Vol. 140 (2024 年 2 月) ため池の築造と増築……………	41
・ 新池の築造 (高知県香南市)	
・ 宝池の増築 (香川県坂出市)	
■ Vol. 141 (2024 年 3 月) 津波の記録を碑に刻む……………	45
・ 椿八幡神社の常夜燈礎石 (徳島県阿南市)	
・ 五味天満宮の石碑 (高知県土佐清水市)	
■ 四国災害アーカイブスの概要……………	49

ため池と開墾

江戸時代、四国の瀬戸内海側では水がかりの良くない土地を切り拓くために、ため池の築造が行われました。香川県観音寺市の井関池と愛媛県今治市の門口池をご紹介します。

■井関池と大野原（香川県観音寺市）

江戸時代初めまで、大野原（現観音寺市）は荒涼たる土地でしたが、水利に恵まれれば良田になると見込まれていました。寛永20年（1643）に近江の豪商平田與一左衛門による大野原開墾の願い出が丸亀藩から許可を得て、水源となる井関池の築造が始まりました。築造費用は平田家が持ち、四国だけでなく中国方面からも日雇いの人々が集まり、普請が行われました。突貫工事により、着工から7か月後の正保元年（1644）に井関池は完成しましたが、工事を急いだためか、半年後には決壊しました。翌年復旧したものの再び大雨で決壊し、慶安元年（1648）には3度目の決壊が起こり、入植した農民の中には逃げ出す者も出始めました。承応3年（1654）に藩主導で井関池の修復が行われ、ようやく井関池は安定し、大野原開墾の基礎が固められました。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年、新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」2005年など＞





■門口池と古谷台地（愛媛県今治市）

朝倉村(現今治市)の古谷(こや)台地は水がかりが悪く、水不足に悩まされていました。水を求める村人の切実な願いに応じて、江戸時代中期に長井忠五右衛門は和算と土木技術の知識を活かして、門口(もんぐち)池の築造と水路建設の計画を立てました。この計画は村人の支持と今治藩の許可を得て、門口池は村中総がかりの出役により起工から数年で完成しました。さらに門口池の水を古谷台地に送るため、忠五右衛門は提灯測量により万灯山の中腹沿いに水路を開き、多伎(たき)川の上に水道橋をつくるなどして、古谷台地40町歩を完全に水田化しました。宝暦5年(1755)の忠五右衛門の死から160年以上経った大正7年(1918)に門口池の堤防が決壊しましたが、原因は忠五右衛門が堤防を嵩上げしないように警告していたにもかかわらず、門口池の堤防を約3m嵩上げたためとされています。堤防下には愛媛県が行った門口池改修事業の記念碑が建立されています。<朝倉村誌編さん委員会編「朝倉村誌下巻」1986年、今治市教育研究所編「今治のくらし」2014年>



昭和35年のチリ地震津波

昭和35年(1960)5月23日4時11分(日本時間)、南米チリで巨大地震が発生し、津波が約1日かけて太平洋を横断して日本などを襲いました。震央から日本の太平洋岸までの距離はおよそ17,000kmですので、津波は時速約700kmの速さで到達したことになります。徳島県阿南市と高知県須崎市の様子をお伝えします。

■阿南市のチリ地震津波(徳島県阿南市)

徳島県内で最初にはっきりした海面上昇が確認されたのは、小松島で5月24日4時10分でした。周期は40～50分で、五波位の後には干潮時間に入り、阿南市橘町を除いて問題にならなかったようです。橘町では海面上昇が正常潮位から2.5～2.9mで、海岸沿いの路上1.6mに達し、V字型の橘湾奥の福井川沿いの大原では約5mの高さの津波があったといえます。津波が突然だったため、橘町では全町の75%が被災し、50%は床上浸水で災害救助法が発動されました。橘町鵜(くぐい)地区の和光神社には、昭和南海地震津波とチリ地震津波の潮位を記した石碑が建立されています。<阿南市史編さん委員会編「阿南市史第4巻」2007年、阿南市史編集委員会編「阿南市史」1967年、徳島県史編さん委員会編「徳島県災異誌」1962年など>



■ 須崎市のチリ地震津波（高知県須崎市）

思いがけずに須崎市で津波の第一波が感知されたのは5月24日3時40分頃の様子です。その後、4時55分から18時20分頃まで十数回、顕著な津波が押し寄せました。津波の高さは、須崎湾口で2mくらいのものが湾内で急に高くなり4.5m近くにもなりました。須崎市の被害は大間、原町、野見、大谷で大きく、住家の全壊17戸、流失2戸、半壊35戸、床上浸水617戸などに及びました。昭和南海地震やチリ地震による度重なる津波を経験し、須崎市では須崎港に防波堤を築くとともに、災害の誘因となった堀川の埋め立てを行いました。その完成を記念して須崎橋に「津波之碑」が建立されています。＜須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974年、須崎市編「南海・チリー地震津波録 海からの警告」1995年、大家順助編「須崎消防の歩み 第2巻 自然災害の記録」1985年など＞

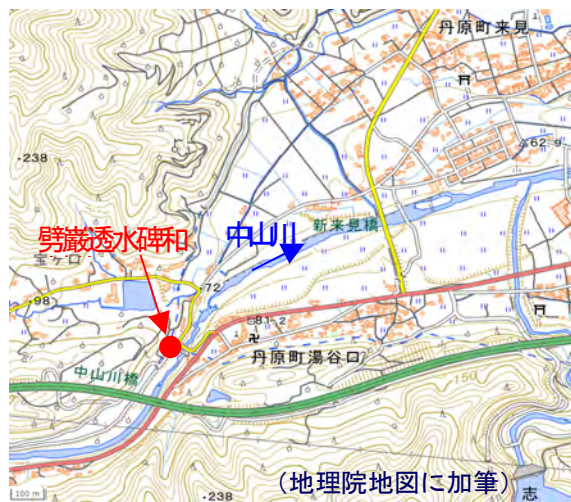


鑿と鎚

江戸時代、水不足に対応するため、人力で岩を砕き石を掘って水を引いてきた人たちがいました。使われたのは鑿（のみ）と鎚（つち）でした。愛媛県西条市の劈巖透水（へきがんとうすい）と香川県さぬき市の弥勒石穴（みろくせつけつ）の例をご紹介します。

■劈巖透水（愛媛県西条市）

来見（くるみ、現西条市丹原町）本田のかんがい用水は来見堰で中山川の水を取水していましたが、設備が不完全なため農民は水不足に困っていました。これを嘆き、来見村の庄屋越智喜三左衛門は、松山藩に再三にわたり修繕改築工事を願い出ましたが許可が得られず、居宅や田畑を売り私財を投じて安永9年（1780）に工事に取りかかりました。自らも鑿を握り、鎚を振るいました。岩盤を砕き続けること9年の歳月をかけて、寛政元年（1789）に長さ12間（21.7m）の井堰と20間（36.2m）の隧道及び76間（137.5m）の岩石打割水路が完成したと伝えられています。その後、明治に入り、子孫で中川村長の越智茂登太らにより増築工事が行われ、中山川の水が来見本田の30町歩を潤してきました。＜西条市水の歴史館ホームページ、門田恭一郎「愛媛の水をめぐる歴史」2006年など＞



■ 弥勒石穴 (香川県さぬき市)

弥勒池では、文政11年(1828)に津田川の水を碎石(われいし)から弥勒池まで導水する全長約2.6kmの掛井が完成していましたが、漏水や掛井の高低差などにより弥勒池まで水が十分に届いていませんでした。嘉永5年(1852)に25歳で富田中村の庄屋になった軒原庄蔵は、津田川と弥勒池を隔てる三つ石山に石穴を通して導水することを考えました。庄蔵は高松藩に工事の許可を願い出て、安政2年(1855)に藩から石穴掘抜方御用掛に任命され、工事に取りかかりました。設計は数学者の萩原栄次郎が行い、工事監督は画家の多田信蔵が担当しました。庄蔵は家や土地を売って資金を捻出し、庄蔵の熱意に応じて石工たちは昼夜12人交代で掘り進めました。長さ105間(189m)の石穴は、工事開始から2年4か月後の安政4年に貫通しました。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年、香川県教育会編「さぬき・人・ここにあり」2013年など>



軒原庄蔵像

copyright©2013 四国災害アーカイブス



弥勒石穴

copyright©2013 四国災害アーカイブス



弥勒池

copyright©2013 四国災害アーカイブス



橋の流失

梅雨の末期には梅雨前線が停滞し、活動が活発になって大雨になることがあります。河川が増水し、時には橋が流失することもあります。今回は愛媛県内子町の豊秋橋と徳島県美馬市の小島橋の流失についてお伝えします。

■豊秋橋の流失（愛媛県内子町）

大正12年(1923)7月11日、数十年来の大降雨があり、小田川が増水は甚だしく、五十崎町(現内子町)字上村新川筋堤防が2箇所決壊、矢ヶ谷・鳥越方面の高い道路さえ数寸の流水がある有様となりました。町全部が浸水し、田畑、山林の被害は甚大で、豊秋橋が流失しました。小田川左岸の天神村消防沿革誌によると、消防は老人、子どもの避難に努め、店舗の荷上げ、その他水災予防に尽力し、豊秋橋の流失により五十崎町との交通が杜絶したため、舟渡しと仮橋架橋に出動しました。復旧工事として、荒蕪地となった田畑の耕地整理が行われ、流失した豊秋橋には鉄筋コンクリート橋が架設されることになりました。〈五十崎町誌編纂委員会編「五十崎町誌」1971年、五十崎町誌編纂委員会編「改訂五十崎町誌」1998年〉



■小島橋の流失（徳島県美馬市）

昭和28年（1953）7月17日から21日頃まで梅雨前線が停滞し、吉野川上流域でもかなりの雨となりました。吉野川が増水し、左岸の岩倉町別所と右岸の三島村小島（いずれも現美馬市）の間に完成したばかりの小島橋（幅3m、長さ156m）が流失しました。橋ができるまでこの間は渡船で結ばれていましたが、昭和24年に吉野川で芝坂小学校（かつて美馬市美馬町にあった小学校）の児童が遭難したことを契機に、関係者の間で架橋の話が持ち上がり、県に陳情しましたが受け入れられず、三島・岩倉両町村が協議して双方の負担で木製土橋を建設したばかりでした。小島橋は開通式を待たずに流失したのです。＜脇町史編集委員会編「脇町史下巻」2005年＞



8 月の台風

8 月は太平洋高気圧が張り出し上空の西風が日本の北を流れる傾向があるため、夏台風は不安定な経路をとり動きが遅く大雨をもたらすことがあります。8 月の台風被害に見舞われた愛媛県伊予市と高知県日高村の例をお伝えします。

■昭和 45 年の台風 10 号（愛媛県伊予市）

昭和 45 年（1970）8 月 21 日午前 8 時、台風 10 号は高知県須崎市に上陸し、午前 10 時 40 分頃に双海町（現伊予市）を通過し、鳥取県米子市を経て日本海に去りました。双海町内の奥地では雨量が 320 ミリ程度となり、特に富岡川と豊田川は惨状を極め、道路、水田ともに一面河原と化しました。また、豊田港と上灘港付近では高潮による被害も受けました。双海町の被害は、25 日現在で住家の全壊 1 棟、半壊 6 棟、一部破損 35 棟、床上浸水 35 棟、床下浸水 225 棟、田畑の流失・埋没 10.5ha、冠水 13ha、船舶被害 11 隻等に及びました。町では被災当日に災害対策本部を設置し、国県とともに復旧にあたりました。奥東の豊田川沿いに災害復旧碑が建立されています。＜双海町編「双海町誌」1971 年、愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986 年など＞





■昭和 50 年の台風 5 号 (高知県日高村)

昭和 50 年 (1975) 8 月 17 日、台風 5 号が高知県宿毛市に上陸し、北上して山口県に再上陸した後、日本海に抜けました。日高村では午後 2 時頃から豪雨が降り始め、あっという間に日下川の水が日高平坦部に氾濫して、全村居住地の 80%が完全に水没しました。午後 4 時頃には、浸水家屋のほとんどは床上浸水となり、国道 33 号沿いの民家では水深が 2 階近くに達し、中心部の役場庁舎や農協の建物も 1 階は完全に水没しました。雨は 17 日夜半にやみましたが、増水は翌 18 日昼頃まで続き、交通は 19 日午後まで完全に途絶しました。村の被害は、水没地域 450ha、家屋の倒壊・半壊・流失 150 戸、死者 25 人、大小の山崩れ 740 箇所、水没水田 210ha、水没畑 50ha 等に及びました。村役場裏に殉難者の慰霊塔が建立されています。この水害を契機に、日下川の抜本的な治水対策が行われることになりました。<日高村史編纂委員会編「日高村史」1976 年>



ジェーン台風とジューン台風

9月は台風シーズンです。昭和20年代に徳島県に被害をもたらしたジェーン台風とジューン台風は、名前が似ているため間違えられることがあり、注意が必要です。昭和25年に那賀川流域を襲ったジェーン台風と、昭和29年に吉野川流域に被害を与えたジューン台風についてお伝えします。

■昭和25年のジェーン台風（徳島県那賀川流域）

昭和25年（1950）9月3日午前10時、台風28号（ジェーン台風）は日和佐付近に上陸した後、紀伊水道を経て神戸付近に再上陸し近畿地方を横切り、若狭湾へ抜けました。那賀川流域では3日午前7時頃より風雨が強くなり、古庄ではピーク流量が $9,023 \text{ m}^3/\text{s}$ と当時の計画高水流量を越える未曾有の大出水となり、流量の改定の契機となりました。被害は、阿南市加茂谷地区（殊に吉井地区）で人家の倒壊・流失22戸、農地壊滅410町歩、鷺敷町（現那賀町）でも人家の倒壊・流失20戸、浸水129戸、負傷者42人などとなりました。また、阿南市桑野地区（殊に山口地区）でも桑野川の氾濫により人家の倒壊・流失16戸、家財流失60戸、田畑の被害480町歩、道路堤防の損壊31箇所にも及びました。＜建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「那賀川改修史」1981年、同「徳島工事五十年史」1997年など＞



■ 昭和 29 年のジェーン台風 (徳島県吉野川流域)

昭和 29 年 (1954) 9 月 13 日、台風 12 号 (ジェーン台風) が九州の南方に近づきました。この台風は進行が遅く暴風雨時間が長かったこと、転向することなくシベリアに北上したことなどが特徴でした。吉野川流域では山間部に短時間で大雨が降り、空前の大洪水となりました。池田町 (現三好市) 板野の水位は 14 日 1 時に 15.8m (警戒水位 9.0 m) を記録し、ピーク流量は池田で 12,620 m³/s、岩津で 14,900 m³/s を記録しました。吉野川は三好・美馬・麻植の各郡で堤防が決壊し、被害は死者 9 人、負傷者 8 人、家屋の全壊 131 戸、流失 55 戸、床上浸水 2,059 戸、床下浸水 6,886 戸などに及びました。この洪水は吉野川の治水計画再検討の契機となりました。<建設省四国地方建設局徳島工事事務所編「吉野川百年史」1993 年、徳島県史編さん委員会編「徳島県災異誌」1962 年など>



第十堰

copyright 2013 西国災害アーカイブス



第十堰付近の昭和29年洪水痕跡水位板

copyright 2013 西国災害アーカイブス



(地理院地図に加筆)

ダムをつくる

ダムがつくられる流域には、水害や渇水など災害に見舞われてきた歴史があります。二度と同じような災害が繰り返されないようにという人々の願いが根底にあって、その上で地権者など関係者の合意や関係機関の協力が得られて、事業が進められることとなります。香川県観音寺市の五郷ダムと愛媛県宇和島市の須賀川ダムについてお伝えします。

■五郷ダム（香川県観音寺市）

昭和20年（1945）10月8日、阿久根台風により、柞田（くにた）川の沿岸では家屋の浸水や田畑の冠水により多大な被害をこうむり、洪水調節について抜本的な対策が望まれるようになりました。また、柞田川に依存する耕地には多くのため池、横井、出水、無数の井戸が点在し、かんがい用水を賄うことは容易なことではありませんでした。このため、香川県は観音寺市、大野原町、豊浜町の1市2町（いずれも現観音寺市）を受益地域として、柞田川総合開発事業を計画し、上流の前田川に洪水調節及び流水の正常な機能の維持増進を図るための五郷ダムを、昭和36年度から昭和39年度にかけて建設しました。堰堤上の記念碑には、ダム建設に伴い水没した家屋や土地があったことなどが記されています。 <讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年など>



■須賀川ダム（愛媛県宇和島市）

昭和42年（1967）夏、宇和島地方は80年来の異常な干ばつに見舞われました。干天日数が100日にも及び、1日3時間給水という状態となり、人々は生活用水の涸渇と農作物の干害に悩まされました。宇和島市では、昭和43年2月に宇和島市水系調査委員会を設置して水源確保に奔走し、市内では須賀川水系以外に取水する適地がないとの結論に達し、須賀川ダム建設について国、県に陳情を続けました。この結果、須賀川総合開発計画の一環として、洪水調節、不特定用水の確保、上水道用水の供給を目的とする須賀川ダムの建設が決まり、地元柿原地区の人々の理解と協力を得て、ダム本体工事は昭和49年7月に着工、昭和51年3月に工事が完成しました。ダムの完成により、断水の不安と悩みが解消され、宇和島市民はその恩恵を受けることになりました。＜宇和島市企画開発課編「水をもとめて 須賀川ダム建設事業完成記念」1976年など＞



須賀川ダム

copyright-2013 四国災害アーカイブス



須賀川ダム完成記念碑

copyright-2013 四国災害アーカイブス



(地理院地図に加筆)

津波が来ると心得よ

先人は歴史や自らの経験から、大地震の後には津波が来ると心得よと、後世の人々に伝えていきます。そのことは、安政南海地震の後に建立された石碑にも記されています。徳島県海陽町と高知県高知市の碑をご紹介します。

■ 鞆浦の海嘯碑（徳島県海陽町）

安政元年（1854）11月4日巳の刻（午前10時）頃、天地俄に震動し、海潮が狂い港口へ満込む音が烈しくなったため、人々は驚き騒ぎましたが程なく治まりました。翌5日申の刻（午後4時）頃、大いにゆれ出し、ものすごい音が響き、海面が膨れ高潮が来襲しました。人々はあわてふためき、とるものもとりあえず、最寄りの山に逃げ登りました。鞆浦では潮は多善寺の門前まで、海部川沿いでは脇の宮まで達し、津波の高さは1丈2尺（3.6m）となりましたが、一人の怪我人も出ませんでした。安政2年に建立された鞆浦の海嘯碑には、大地震の後には津波が来るので、迅速に逃避して命を守ることが大事という趣旨のことが記されています。＜鞆浦の海嘯碑の碑文、猪井達雄・澤田健吉・村上仁士著「徳島の地震津波－歴史資料から－」1982年など＞



鞆浦の海嘯碑 copyright©2013四国災害アーカイブス



鞆浦魚港 copyright©2013四国災害アーカイブス



■ 浦戸の稲荷神社の石柱碑 (高知県高知市)

安政元年(1854)11月4日辰の下刻(午前9時)頃小震あり、その後潮に変化が起こり、八ッ時(午後2時)までの間に3回の干満がありました。翌5日7ッ過ぎ(午後4時頃)に未曾有の大地震が起こり、家屋の倒壊はさながら将棋を倒すが如くでした。ちょうど夕方の炊事の時でした。ちまち火災が各所で起き、その光景は凄惨を極めました。少しして海嘯が浦戸口から押し込み、下知堤を決して下町に侵入しました。高知市内の被害は、流家1,676戸、潰家568戸、死者106人に及びました。浦戸稲荷神社には、倒壊した鳥居を譲り受けた大黒屋嘉七良が警告文を彫り込んだ石柱碑があります。そこには「後世人大地しん有時津浪入と心得へし」と刻まれています。<高知市編「高知市史」1973年、浦戸稲荷神社の石柱碑など>



沈下と隆起

昭和21年(1946)12月21日に発生した南海地震は、四国各地に地震と津波の被害をもたらしましたが、地盤変動による沈下と隆起が被害をさらに大きく、長引かせることになりました。地盤沈下した愛媛県松山市と隆起した高知県土佐清水市の例をご紹介します。

■北温海岸の沈下(愛媛県松山市)

昭和南海地震は、愛媛県内の多くの海岸線で地盤沈下を引き起こしました。「四国地方地盤変動調査報告書」によると、沈下量は壬生川町(現西条市)の55cmを最大として、各地で数十cmとなっています。地盤沈下により、海岸沿いの各地では高潮被害に見舞われることになりました。北条町(現松山市)では、昭和南海地震及び昭和25年のキジア台風による高潮被害が床上浸水234戸、床下浸水581戸、護岸決潰5箇所、堤防破損4箇所等に及びました。このため、北温海岸では海岸保全工事が行われ、昭和36年に竣工しました。北温海岸防波堤竣工記念碑には、この海岸の地盤沈下は約60cmと記されています。<北条市誌編集委員会編「北条市誌」1981年、四国地方経済復興開発委員会地盤変動調査専門委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第九集」1951年など>



■唐船島の隆起（高知県土佐清水市）

昭和南海地震により、高知県の海岸線では地盤の隆起と沈下が起こりました。「四国地方地盤変動調査報告書」によると、土佐湾の東端の室戸岬で約1m、西端の足摺岬で約60cm隆起して港への船の出入りに支障をきたすようになる一方で、高知市と須崎市の付近では約1m沈下するなど各地で沈下が起こり、住家や田畑等が浸水被害をこうむることになりました。土佐清水市の清水港内東奥にある唐船島（とうせんじま）は、島裾に残っていた貝類等の付着跡と地震後の汀線によって、昭和南海地震により約80cm隆起したことが明らかとなり、地質学の貴重な資料として昭和28年に国指定の天然記念物になりました。＜南海大震災誌編纂委員会編「南海大震災誌」1949年、四国地方総合開発委員会地盤変動調査専門委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第一輯」1949年など＞



唐船島



唐船島の碑



水のありがたみ

長年水不足に悩まされてきた香川県は、香川用水により恩恵を受けることになりました。香川用水は、早明浦ダムで開発された水を池田ダムで取水して導水トンネルで三豊市財田町へ送り、ここから東西の幹線水路によって県下に農業用水、上水道用水、工業用水として送水しています。まんのう町と三豊市に香川用水の記念碑が建立されています。

■佐文の香川用水記念碑（香川県まんのう町）

仲南町（現まんのう町）佐文地区は、昔から干ばつに苦しめられ、雨乞いのための綾子踊りが伝えられてきた土地です。昭和9年、14年などの干ばつ年には大きな被害を受け、平年でも用水不足のために多大の労力を使いながら合理的な稲作を行うことができませんでした。このため地区総会の決議に基づき香川用水導入の申請を行い、工事が昭和47年に始まり、昭和51年3月に竣工しました。香川用水の完成により、佐文地区（受益面積90ha）では、従来の水利慣行が廃止され、水利用が合理化されて、受益者は平等に権利義務を有することになりました。香川用水記念碑には「これで水不足は全く解消し将来当地域の営農向上に大いに貢献するものと期待している」と記されています。＜佐文の香川用水記念碑の碑文、綾子踊の里佐文誌編集委員会編「綾子踊の里佐文誌」1980年など＞



佐文の香川用水記念碑 以善アーカイブス



綾子踊の碑 (加茂神社) 以善アーカイブス



(地理院地図に加筆)

■ 満水池の香川用水導入記念碑 (香川県三豊市)

高瀬町(現三豊市)の満水池は、古くは腕(かいな)池と呼ばれていました。小池を弘法大師が腕で錫杖を使って増築したという伝説によるものでした。享保3年(1718)に地底を浚渫して貯水量を増やした際に、満水池と改称されました。満水池の受益地(受益面積70ha)となる高瀬町は、用水不足に悩まされてきた土地柄で、昭和14年の干害では町内の稲作は壊滅状態だったと言われています。待望の香川用水が満水池に導入されたのは昭和51年12月でした。香川用水導入記念碑には、「お陰で多年干害に苦しめられたこの地区も毎年のように豊穡の秋を迎えることができることになりました」と刻まれています。<満水池の香川用水導入記念碑の碑文、高瀬町編「高瀬町史通史編」2005年など>



ため池の築造と増築

水不足に悩まされてきた地域では、ため池の築造や増築が行われてきました。そのためには労力や資金が必要ですので、関係者の合意がなければなりません。干ばつを契機に、地域のリーダーが人々を導いてため池の築造や増築を進めてきた例として、高知県香南市の新池と香川県坂出市の宝池をご紹介します。

■新池の築造（高知県香南市）

野市町（現香南市）東佐古上分地区は山岳地帯で、水利の便が悪く、古来よりしばしば干ばつ被害を受けてきた土地柄でした。明治26年（1893）6月24日～8月4日と翌明治27年6月24日～7月21日及び7月25日～9月1日の間には全く降雨がなく、地面が裂けるような干ばつが続きました。稲は枯れ、地は原野と化し、家潰れ者が続出する有り様でした。そこで、国吉辰三郎や永森徳馬など地区の有志が協議して地区民に諮り、用水池構築を決定し、新池と命名することにしました。新池は明治28年2月に起工し、明治30年4月に竣工しました。延べ出役人数4,651人、工事費として米302石1斗を要しましたが、これにより東佐古上分の農民は大きな恩恵を受けることになりました。小山池の畔に新池建設記念碑が建立されています。〈野市町史編纂委員会編「野市町史上巻」1992年〉



■宝池の増築（香川県坂出市）

坂出市府中町赤尾には赤尾池、宝池、セビ池という3つのため池があります。文政元年（1818）に高松藩がまとめた記録に、赤尾新池、赤尾大池、赤尾西池の3つのため池が記載されていますので、それぞれがどの池に符合するかは特定できませんが、江戸時代から赤尾谷に3つのため池があったことは確かのようにです。昭和14年（1939）は春から降雨が少なく、7月には稲の枯死する田地が多く見られるようになりました。そこで、府中村（現坂出市）赤尾の平田兵七はかねて構想していた新池増築を人々に諮り、昭和14年12月に起工し、幾多の困難を乗り越えて翌昭和15年5月に完成させました。宝池の堤防に建立されている平田翁功頌碑には「七町歩餘の常習旱田化して永久美田と安定せり」と刻まれています。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年、坂出市史編さん所編「坂出市史通史下現代篇」2020年＞



津波の記録を碑に刻む

安政元年（1854）11月5日の安政南海地震では、四国各地で津波による大きな被害が出ました。津波の恐ろしさや教訓を後世の人々に伝えるために、石碑などに先人のメッセージが刻まれています。今回は徳島県阿南市の椿八幡神社の常夜燈礎石と高知県土佐清水市の五味天満宮の石碑をご紹介します。

■椿八幡神社の常夜燈礎石（徳島県阿南市）

安政元年（1854）11月4日四ツ時（午前9時頃）に安政東海地震が発生し、その翌5日夕七ツ時（午後4時頃）に安政南海地震が起こりました。椿八幡神社の常夜燈礎石の碑文によると、4日の地震では津波が堤防を越えて川筋奥深くまで入りましたが、その後海上は静かになりました。5日の地震では、酉の刻（午後6時頃）に見上げるばかりの高さの津波が来たので、若い人は年寄りを助け、幼い子どもを携えて山に登って避難しました。山に登って村内を見ると、津波は香の谷中村まで達し、家屋の流失9軒、浸水18軒、埋没水田30余町の被害が出ましたが、氏子たちの身が無事だったのはこの御神の加護のおかげであるという趣旨のことが記されています。＜田所一太著「椿村史昭和十五年十月刊復刻版」2021年、阿南市史編さん委員会編「阿南市史第2巻」1995年など＞



■五味天満宮の石碑（高知県土佐清水市）

安政元年（1854）11月5日昼七ツ時（午後4時頃）大地震が起こり、間もなく下茅（現土佐清水市下ノ加江）では浦分の家と蔵が一軒残らず流家となりました（大西家文書による）。この大津波に関する石碑が五味天満宮に建てられています。この碑には「頃は嘉永七寅年十月より潮くるひ、十一月四日すゝなみ来り、五日大地しん、間もなく大しほ入来る、向ゝ潮くるひ候時は大へんところろに用心すへし」と記されています。この碑は元伊豆田坂にあったものを、伊豆田トンネル工事のために昭和31年に下ノ加江の天満宮境内に移設したとのこと。＜橋本登著「下茅の歴史」1970年、土佐清水市史編纂委員会編「土佐清水市史下巻」1980年など＞



四国災害アーカイブスの概要

■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用していただきます。

四国災害アーカイブス <http://www.shikoku-saigai.com>

■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、29,803件です（令和6年4月現在）。

■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波 2)土砂災害 3)渇水 4)風水害 5)高潮	6)雪害 7)火山災害 8)大規模な火災 9)その他	
災害情報の概要	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害軽減の取り組み、等		
情報収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの		
情報収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ・市町村史、郷土史 ・災害記録、災害体験集 ・学術論文、雑誌論文		・事業誌 ・写真集 ・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真 ・原資料PDF（著作権者から許諾が得られた場合）		

■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の3つのことをお伝えできればと考えています。

①身近な所に災害の歴史があります

平成23年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、濁水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きくなるように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしたいだけ、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンを毎月発信しています。メールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。

E-mail: info@shikoku-saigai.com

アーカイブスあらかると

Vol. 130~141 (2023年4月~2024年3月)

四国災害アーカイブス事務局
(一般社団法人 四国クリエイト協会)
〒760-0066 香川県高松市福岡町 3-11-22
電話 087-822-1676 FAX 087-823-8569
<http://www.shikoku-saigai.com>